

# 半田市財政の現状

地方公共団体では、さまざまな指標を使って、財政の健康状態を管理しています。ここでは、4つの財政指標からなる「健全化判断比率」と公営企業会計ごとの「資金不足比率」をお知らせします。表に示したとおり、いずれの数値も基準を達成し、健康な状態です。

## 健全化判断比率

指標・基準	早期健全化基準	財政再生基準	半田市の算定結果	全国の状況(速報)
<b>実質赤字比率</b> 一般会計などの実質的な赤字は、収入の何割か	12.02%以上	20.0%以上	該当なし	なし
<b>連結実質赤字比率</b> 市の全会計の実質的な赤字は、収入の何割か	17.02%以上	30.0%以上	該当なし	なし
<b>実質公債費比率</b> 収入のうち、何割を借金の返済に充てているか	25.0%以上	35.0%以上	0.0%	5.7%
<b>将来負担比率</b> 背負っている負債は財政規模の何割か	350.0%以上	-	該当なし	24.9%

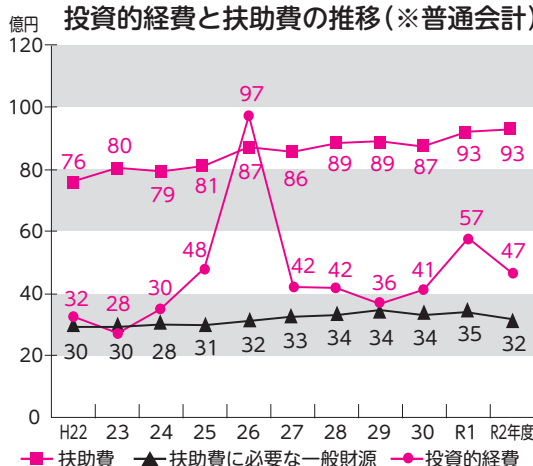
## 資金不足比率

指標・基準	経営健全化基準	半田市の算定結果			全国の状況(速報)
		病院事業	水道事業	下水道事業	
<b>資金不足比率</b> 企業会計の資産の不足額が、事業規模の何割か	20.0%以上	該当なし	該当なし	該当なし	9公営企業会計が経営健全化基準以上資金の不足がある公営企業会計は48会計

※実質赤字比率、連結実質赤字比率、資金不足比率においては、赤字または不足額がない場合は、「該当なし」としてあります。また、健全化判断比率の全国状況(速報)には、赤字額がある市区町村の数または市区町村の平均値を掲載しています。

## 投資的経費と扶助費の状況

投資的経費と扶助費の推移(※普通会計)



投資的経費とは、道路、公園、学校など将来にわたって社会基盤を形成する目的で支出した費用です。令和2年度は、小中学校のコンピュータ整備、乙川中学校の改築、乙川東小学校の増築などでの増加があるものの、J-R武豊線連続立体交差化事業の用地買収が完了に近づくことによる減や小中学校への空調機設置の完了に伴う減により前年度から10億円の減となる47億円となっております。今後は大規模な公共施設の老朽化に伴う更新などが控えているため、投資的経費は増加が見込まれます。

扶助費とは、生活に困っている人や子育てをしている世帯に対して社会全体で支えるために支出した費用です。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えにより子ども医療費扶助費は減ったものの、新型コロナウイルス感染症対策として実施した低所得のひとり親世帯や子育て世帯への臨時特別給付金給付事業を実施したことなどによる増により、前年度と同額の93億円となりました。

※普通会計とは、一般会計に乙川中部土地区画整理事業、J-R半田駅前土地区画整理事業の2つの特別会計を加えたものを指します。

## 市債残高の状況

ピーク時から681億円の削減!

市債とは道路や公園、学校など将来にわたってご利用いただく公共施設を建設・整備するときに、国などから借り入れる借金のことです。これらの借金は、将来の世代の方にもその費用を分け合っていたり、世代間の負担を公平にする必要性もあります。市債残高が増えることと利息の支払で財政を圧迫することになります。

市では平成15年度に借入残高が約955億円となりました。その後、計画的に返還したことにより、令和2年末の市債残高は約274億円となりました。今後は、新病院の建設や老朽化した公共施設の大規模な更新等が必要になるため、適正な規模での地方債発行を行ってまいります。

